Vol.2011-CE-112 No.9
2011/12/18

教育方法への取組みに向けて
― 勉強会を始めませんか ―

筧 捷彦†

大学での教育について内外から変革を求める声が高まっている。その要点は知識伝達教育から「学士力」「社会人基礎力」といった基本力の育成教育に力を注げ，ということにある。そうした基本力育成をどう行い，その成果をどう計ればいいのか，すでに多くの試行が行われているが，そこで得られた知見を共有するための場をもっと広げる必要がある。「教育とコンピュータ」研究会がそうした場の中核になっていくことを期待する。

Let's start study on educational methods

KAKEHI Katsuhiko†

University education is demannded to reform its style. Graduates are expected to be attributed with lot of fundamental ability and skill for problem solving, team working, communication, and lifelong learning, besides their knowledge on their major subject. University must provide educational frame for students to study in groups and by themselves and to learn how to learn by oneself. There have been trials and practices in universities. We should share such experience and findings to revise our education in university level. Would this sig CE take leading position for such activities?

1. 問題意識

CC2005 にしても J07 にしても，基本は知識項目の体系化が主体である。それだけでカリキュラムが出来上がるものではない。（IS は，知識項目の体系化を超えたものを準備している。）どんな方法で教育するのか，についての“研究”が圧倒的に不足している。“研究会”を起こして，まずは（他分野の例を引いてくるだけの）勉強会活動を始める必要があるのではないか。たとえば，outcomes の評価をどのように行えばよいか，という一事をとっても “研究”が足りない。

J07 が“知識”体系であるのに対して，ITSS などが“スキル”体系だといわれていて，両者の対比がないという。その“スキル”の評価が“実績”によっている限り，同じ天秤での両者の対比はできようもない。産業界からの大学教育に対する注文の大きなものに“実践力”がある。その“実践力”とは何で，どう評価できるものなのかを定めずに議論してもかみ合うはずもない。

一方で，大学教育の見直しでは“学士力”と叫ばれているが，これまた，具体的にはそれが何であり，どう評価できるものなのかがいっこうに明らかにならない。ひょっとすると，産業界が大学に育成を求めている“実践力”と，大学側で叫ばれている“学士力”は，本質的には同じものなのかもしれない。

2. 期待

そう思っていろいろ文献などを漁ってみると，アメリカでは教育方法に関する工夫に関して様々な研究・実践が行われている。国内でも，文科省や経産省の補助金などを受けて教育の GP（Good Practice）プロジェクトが様々に行われている。こうした例に学び，新しい教育の方法を研究する活動を是非活発に進めたいものである。この「教育とコンピュータ」研究会がそうした活動の拠点となっていくことを期待したい。

参考文献

1) Edward Crawley, et.al., Rethinking Engineering Education – The CDIO Approach, Springer Science +Business Medai, 2007.
2) Barbara Bekken, Joan Marie, Making Self-Authorship a Goal of Core Curricula: The Earth Sustainability Pilot Project, NEW DIRECTIONS FOR TEACHING AND LEARNING, no.109, Spring 2007 © Wiley Periodicals, pp.53-68.
3) Robert Kegan, The Evolving Self: Problem and Process in Human Development, Harvard University Press, 1982.

† 早稲田大学
Waseda university

ⓒ 2011 Information Processing Society of Japan